



JAC北九だより NO.30

(平成18年第4号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部
Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行: 社団法人日本山岳会北九州支部
事務局: 北九州市門司区新原町12-27
関口興洋方
TEL・FAX 自宅 093-382-6436
携帯 090-8919-6776
発行人: 大庭 常生
編集人: 関口興洋・伊藤久次郎

先達の苦勞で 戦中を生き抜いたレリーフ

第60回ウエストーン祭にあたって ウエストーン・レリーフとウエストーン祭

日本山岳会信濃支部 No. 5776 小林 俊 樹

明治21年4月、イギリス聖アンドレ教会牧師として初めて日本の土を踏んだ、Walter・Weston (1861~1940)が、飛騨山脈の一角上高地に第一歩を刻んだのは、明治24年(1891)8月のことでした。ウエストーン30歳、日本の山々が近代化に向けて開かれる記念の山行でもありました。

当時、8時間もかかったという東京・高崎間を汽車に揺られた後、(注・信越線全線開通は明治26年)鉄道馬車で碓氷峠を越え、軽井沢に宿ったウエストーンは、そこで足ならしの浅間登山を終え、上田から保福寺峠を越えて松本の町に入っています。

「雪の縞模様をつけた根根や、低いものでも1万フィートはある雄大な連峰が乳色(オパール)の夕空に紫の輪郭をくっきりと浮かびあがらせた。日本のマッターホルン・槍ヶ岳、ペニナルプスの女王ワイスホルンを小さくしたような優美な三角形の常念岳…」と、後に名著『日本アルプス登山と探検』に記した保福寺峠の眺めは、ウエストンの槍ヶ岳への志向を決定的なものにしたようです。

以来、三度目の来日を終えて帰国する大正3年(1914)までウエストーンが日本の山々に残した足跡と、登山界に尽した功績は実に大きなものでした。この功績を称えて日本政府が勲四等瑞宝章を贈ったのは、昭和12年(1937)極東の地に戦火が燃えさかろうとしていた頃のことです。

これに呼応して日本山岳会もまた、独自の顕彰計画を推進していました。日本登山界の黎明期に残した先駆的業績と、77歳の喜寿を祝っての、レリーフ制作とその建碑だったのです。

この計画にそって制作に従事したのは、日本山岳会員・佐藤久一朗(会員No.1630)。レリーフの原型は、縦2尺1寸5分(65.2センチ)、横1尺5寸(45.5センチ)の額面型のものでした。

ついで同年の6月下旬、建設地点の選定が行なわれています。検分者は、楨有恒(No.341)、黒田孝雄(No.641)、中司文夫(No.1461)と制作者の4名、所は上高地に決まっていた。

岩探しに先行した黒田が選んだ候補地は4ヶ所、その結果、当時は熊笹に覆われていたウエストーン馴染みの清水屋に近い、現在地の花崗岩が選ばれたのです。

レリーフの取り付けは昭和12年8月26日、楨、佐藤の兩名と、松本の石工金子栄蔵、光雄父子の4名によります。工事開始は8時半。金子父子が、はめ込み部分を彫

り終わったのが4時半。制作者自身によるセメントづけの終了は6時だったといえます。訪れる登山者もいない静かな上高地、夏の夕暮れのことでした。この取り付けからわずか5年、レリーフはひそかに上高地を去らざるを得なかったのです。



現在上高地にあるウエストーン・レリーフ。昭和40年以前は角形のレリーフであった。

昭和16年(1941)12月8日に端を発した太平洋戦争下、敵対国イギリスの登山家の像が、安泰であるわけがありません。軍や大政翼賛会の圧力を受けた日本山岳会では、やむなく取り外しに応じています。その要員として、山岳画家茨木猪之吉(No.262)と、明治大学出身の少壮登山家交野武一(No.1068)ほかを現地に派遣したのです。長野県庁など関係官庁との折衝に手間どった2人が雪の上高地にたどり着いたのは、あたかも開戦1年後の昭和17年12月8日昼近い頃でした。同行した石工は、5年前の当事者金子光雄と助手の原克巳兩名、30分もかからない取りはずし工事だったといえます。

この極秘行動によって、東京虎ノ門の山岳会ルームに保管されていたレリーフが再度の災難に逢って一部焼損したのは昭和20年(1945)5月25日、B29による東京空襲の夜でした。それでも何とか原型は残されたので、急きよ武田久吉(No.5)宅に移管保存し、かろうじて終戦を迎えたのです。

この受難のレリーフが彫刻家松浦藤太郎の手で部分修復を終え、上高地の現在地にもどったのは、昭和22年(1947)6月14日(土)でした。雨模様の復旧式に参加したのは、東京方面からの30名、松本地区からの40余名など、総勢70余名を数えました。復旧工事には当時上高地帝国ホテル改修工事中の清水建設の手をわずらわしています。社員だった、浜野正男(No.1730)の気配りでした。焼失したウエストンの姓名部分には板をはめ込み、松方三郎(No.547)が墨書して応急処置を施しています。

戦後間もないこの復旧式が、ウエストーン祭の起りでもあります。その二日後の6月16日、松本のセントラル座で「ウエストーン記念講演会」が開かれました。日本山岳会信濃支部発足の記念行事であり、以後欠かすことのない記念講演の始まりでもあったのです。

それから4年後の昭和26年(1951)6月22日、制作者佐藤は松方板をはずし、ウエストンの自署名と、生存年を彫ったブロンズに取り替えています。ポスターの最初もこの時です。この時同時に、長野県製作の英文解説真鍮板が取りつけられましたが、walterの「e」が「a」と誤刻されるというお負けつきのものでした。訂正して取り替えたのは、平成3年(1991)になってからです。

ウエストーン祭りの名で行われた第2回には、女性参加者による初めての献花、第3回は山祭り。ウエストーン祭の名称が定着し、記念参加章(唐檜の実)が作られたのは、昭和25年(1950)の第4回でした。

ついで第6回の記念手拭。東京エーデルワイスクラブの合唱が始まったのが第11回。

詩人尾崎喜八(No.1419)の自作詩朗読の最初は第12回。徳本峠記念山行は、昭和36年(1961)の第15回、6月の第1日曜日午前10時の碑前祭もこの時からです。あたかも、ウエストーン生誕百年を祝っての記念行事の定着でした。

なお、第19回当時の昭和40年(1965)6月6日、レリーフ制作者自身が改作した、直径2尺7寸(81.8センチ)の円形レリーフが除幕披露されて、今日に至っています。

この時生まれ変わったレリーフは、その後昭和から平成へと時を刻み、きびしい上高地の風雪に耐え続けています。そしてこの不動のウエストーンは、年ごとの登山者に思いを馳せ、じっと見守ってくれているのです。どうぞ今年もまた、安全な山旅を楽しんで下さい。

(文中敬称略)

2006年6月4日

(日本山岳会信濃支部)

(記念手拭包装紙印刷の文から)



記念手拭

前穂高北尾根と奥穂高

記念手拭デザイン

金光義朗氏

日本山岳会会員

日本水彩画会会員

6月支部山行

大雪溪の焼岳踏破とウエストーン祭に参加して

北九374 小林 富雄



焼岳山頂の残雪の上で、後方は岳沢と前穂高

帰路～上高地～新島々～

松本～名古屋～小倉

○参加者 5名

CL 13643 関 口 興 洋

SL 13499 伊 藤 久 次 郎

13722 藤 田 傳

14045 池 田 暁 彦

北九374 小 林 富 雄

大雪溪の焼岳踏破

「感動」

一度は参加して見たかったウエストーン祭、しかも今回は記念の第60回に参加する機会を得、軽い気持ちで申し込んだところ、今回の参加者は役員や超先輩達ばかりで、新参者の私が参加させて貰って良いものか、又、日本百名山の一つである焼岳(2455m)にはたして登頂できるだろうかなど戸惑いがありました。

しかし皆様の温かいお誘いがありましたので大変感激して参加させていただきました。

一週間前の気象状況ではこの三日間は雨時々曇りということで悪天候

○ 期日 平成18年6月2日(金)

～4日(日) 2泊3日

○ 行程 6/2(金) 小倉～名古屋～松本～新島々～上高地

(中の湯温泉泊)

6/3(土) 中の湯温泉～焼岳

～上高地(上高地アル

ペンホテル泊)

6/4(日) ウエストーン祭・午餐会(山の旅舎五千尺ロッジ)に出席。

になるのかなあとすこし覚悟していましたが、なんとなんと三日間とも最高の晴天で記憶に残る山行となりました。

過去の雪渓登山で印象深かったのは「白馬岳」の大雪渓でした。今回はそれを勝るとも劣らない厳しい登山を体験することができました。

日本百名山の一つでありながら不遇の山と申しますか、登山者から脚光を浴びることがない山の「焼岳」、本山は控えめで他の著名な兄弟の山である「槍ヶ岳」・「奥穂高岳」・「西穂高岳」・「前穂高岳」・「明神岳」・「霞沢岳」等の名峰に隠れて、奥ゆかしく控えめにそびえ立ちながら精細な名峰の一つであることに気づいてくれるクライマー達を持っている山でもあります。

「行程」

6月3日(土)午前8時30分、中の湯温泉の裏から、九州ではすでに天ぷらにして食べ終わっているフキノトウを見ながら登山を開始し、途中、猿の出現やウグイスの歓迎を受け白樺やダケカンバの新緑の中を進みました。その新緑の鮮やかな緑はここ北アルプスでしか見ることができないものでした。登山口から6月上旬なのに積雪があり、さすが北アルプスに来ているんだと実感しました。



山頂付近から見る大雪渓

4合目付近を過ぎた頃から本格的な積雪があり、安全を期するためアイゼンをはめることになりました。すると登山口から2時間位歩いた頃、頭上に続く大雪渓を目にしたのです。それは圧巻でした。

さらに奥深い頂上らしきところに噴煙が吹き出ており焼岳の活動を再認識

させられました。

この大雪渓は延々と1時間も続き、かなりきつい前進でしたが関口CLが私のぜんそく既往症歴を持っていることを心配してペース配分をいただいたおかげで無理なく大雪渓を克服することができました。

一寸余裕のあるところを見せると正面頭上は焼岳頂上、背面は乗鞍岳をゆっくりと見つめることができました。

焼岳直下で北と南の分岐点は噴火活動しているせいか突然雪は解け岩ばかりとなりましたのでアイゼンをはずしザックを下ろして頂上を目指し午後1時30分、約5時間の行程で踏破し全員の顔は満足度100%でした。

いい年をして恥ずかしいのですが「やったあ」と言う気持ちでいっぱいでした。頂上でのロケーションは言葉に表すことができないほどで360度の大パノラマです。

北に「奥穂高岳」・「前穂高岳」・「吊り尾根」・「明神岳」・「西穂高岳」・「槍ヶ岳」・東に「霞沢岳」・「常念岳」西に「笠ヶ岳」南に「乗鞍岳」等の母なる名峰に抱かれている山がここ焼岳ではないかと思えます。

私が北アルプスに挑戦していた時期は7月下旬から8月上旬の平均的に安定した天候の時期に登っていましたので6月上旬に北アルプスに来るのは初めてでした。

今回、百名山空撮写真などの情報では宮崎高千穂峰のように火山噴火の

れきの山でバラスを踏みつけて登る山とっておりましたので、まさか深いところでは2m以上も残雪があるとは驚きと感動でした。「山に感謝」



第60回ウェストン祭参加

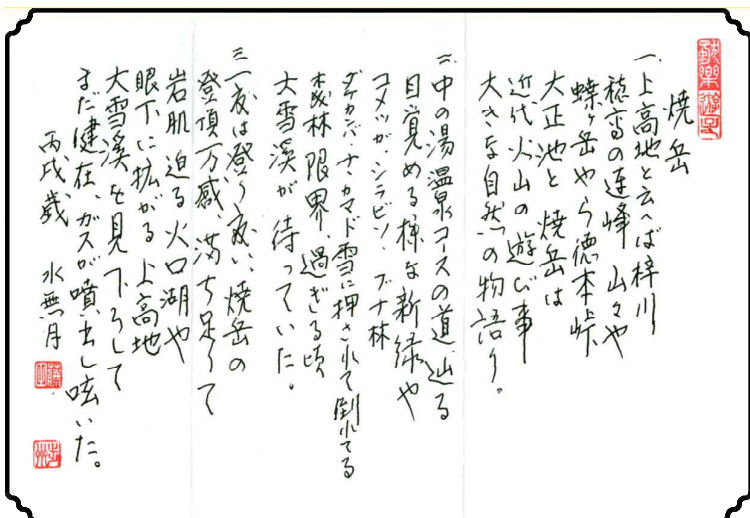
6月4日(日)午前10時00分ウェストン碑のある会場において、日本山岳会信濃支部主催の記念すべき第60回ウェストン祭に我ら北九州支部5人が出席しました。

引き続き正午から、山の旅舎「五千尺ロッジ」における午餐会にも参加させていただき、環境省北アルプス管轄職員、松本市助役、日本山岳会会長、信濃支部長らの挨拶後、午餐会では非常に盛り上がり平山会長は勿論、東京支部の岳人達等と歓談する等して全国区の会員との交流も深まり北九州支部の名を全国の岳人達にアピールができたことに喜びと感動を頂きました。

本当に有り難うございました。今回お世話していただいた関口CL・伊藤SLや藤田先輩・池田先輩に感謝です。

焼岳の詩

藤田 傳



5月支部山行 英彦山山開き(山頂祈願祭)

前夜祭は青年の家で開催

北九397 柳 俊 一



前夜祭の会場となった青年の家体育館

平成18年5月27日(土)は朝から雨、前日からの雨でしっかりと山が濡れています。

この雨の中、前夜祭に参加組が英彦山野営場に17時00分、予約済みのバンガロー3棟の中の1棟に今回のCL日向氏、SL高島氏、伊藤夫婦、浜松さん、関口氏、室津氏、宮城氏と飲助の柳の9名が山賊鍋で宴会を始めています。

外は雨のため今日の前夜祭は県立英彦山青年の家での開催に変更とスピーカで案内しています。

英彦山野営場管理棟にマイクロバスが18時00分に迎えに来るということで、ゆっくりとお食事する暇がありません。

前夜祭より帰ってきて宴会を開くことにして県立英彦山青年の家へマイクロバス2台で出発します。

県立英彦山青年の家に宿泊組と一緒に前夜祭が19時00分より始まります。

添田町長のありがたい長いお話に始まって沖縄の太鼓、まさかり舞、英彦山踊りとすすみ、やっとかつぼ酒です。かつぼ酒と焼き鳥に舌鼓をうちながら長いお話をしていたら早いこと21時00分マイクロバスで帰れとのことでした。

バンガローにご帰還後、宴会の続きの始まりで終わったのはよく覚えていませんが12時か1時か、わかりません。

朝6時に起床し7時より昨日の鍋にご飯を入れた雑炊が朝食です。

女性2人が全員昼食用のおにぎりも作ってくれています。ありがたい

ことです。

ここで室津氏と宮城氏が用事があるということで帰宅することになり7名が英彦山駐車場に出発し、登山の用意を始めました。天候は曇り。

英彦山駐車場を8時05分伊藤氏の先頭で、最後尾はビニール袋をぶら下げた清掃登山のSL高島氏とCL日向氏で出発します。

裏街道の好きな伊藤氏のことです、英彦山駐在所の先より左側に登っていきます。この道は住宅の間を通過して奉幣殿へ行く裏道です。

奉幣殿に8時34分に到着すると、すでに今日参加組の丹下夫婦と池田さん、丹下さんの友達の4名が登山準備完了で待ってられました。

この奉幣殿に酒を持って登ってきた関口氏と日向氏、高島氏、伊藤氏の幹部組が奉納のため社務所に行っています。その間、今日の安全登山をお願いして登山準備完了です。

ここで奉納が終わった関口氏が、用事があるということで下山。

登山組全員10名となり奉幣殿を8時45分出発、昨夜までの雨で登山道はぬかるんでいますのでゆっくりと進んでいきます。

山頂祈願祭は11時からの予定です、途中休憩を含め、花があると花談義が始まり、ゆっくりとすすみ10時10分山頂到着です。

祈願祭まで時間が50分程度ありますので、各自早いですが昼食や向かい酒等で祈願祭の開始を寒さに堪えながら待っています。

11時社務所より祈願祭が始まるとの



日本山岳会を代表して
玉串を捧げる日向氏

連絡があり日本山岳会北九州支部代表としてCL日向氏とSL高島氏の両名に祭壇にあがって貰い、あとは神殿内で神妙に始まりを待っています。

風が強く神殿の中に寒い風が吹いていますがなかなか始まりません。

11時15分すぎにやっと祈願祭が始まりました。

祭主の次に地元観光協会、その次に日本山岳会北九州支部の順番で粛々と行われています。

全員で山での安全祈願を行い11時30分終了しました。

記念のタオルは野営場管理棟でもらいましたのでここでは並ばなくて済みます。

全員の記念写真を撮り最高峰の南岳に行こうということになり11時45分南岳に向かって出発し15分後の12時00分に南岳に到着です。

ここで、さすがCL日向氏です、リュックよりなにやら取り出しています、シャンパンが出てきました。今日のおき日(祈願祭)をお祝いしてカンパイです。思わぬ記念のお祝いが出来ました。日向氏、ありがとうございます。

南岳から鬼杉方面は岩場があり昨日の雨で濡れているとの判断で中岳まで戻るということに決定し12時06分南岳を出発し21分中岳山頂を下山開始します。

時間は十分にあるので、ゆっくりと下山、花があると又その場所で花の会議が始まります。途中より裏街道のうぐいす谷というバードウォッチングする道へと進み、途中雨が降りだしカッパや傘など各自準備し、駐車場に13時55分無事到着しました。

到着後、清掃登山組のゴミをゴミ箱に回収し全員温泉にと思ったのですが、時間が早いので帰宅して風呂に入るとのこと、あきらめ帰宅しました。

今回ありがたい祈願を受けた10名様御一行は、今年一年無事に登山が出来ること受け合いです。

では、またの登山で一緒に!

山行記

原生林の祖母山～障子岩尾根を歩く

No. 11990 原 広 美

5/1～2日にどこに行こうかと思っていた矢先、障子岩尾根を行こうと誘われた。この尾根は数年前歩いたことがあるが、健男社からササコギで始まり数箇所岩場のある長い尾根歩きの記憶がある。その時やっとの思いで宮原に着き夕方尾平に下ったことしか覚えていない。記憶を辿りながら今回もう一度チャレンジしてみようと思った。

5/1 上畑発8時50分のバスに間に合うように下関を3時30分出発した。バス停が去年の台風で土砂崩れに遭い様子が変わり戸惑った。20分で尾平到着、屹立した天狗岩、烏帽子岩、障子岳を見上げながら奥岳溪谷に入って行く。黒金山尾根の梅の原生林を登りつめると途中天狗の水場があり冷たい水で喉を潤す。

12時50分に天狗岩の右の肩に



アケボノツツジと大障子岩

取り付いたがきつい登りだった。これから山頂まで1時間10分の予定。岩場にかけてあったふらついた梯子も今回はしっかり固定されていた。数箇所の岩を登って行くともう山頂だ。急にガスが湧いてきたので早々と九合目小屋「あけぼの荘」まで急ぐ14時30分着。小屋の泊り客は全部で10人くらい

18時ころ小屋の加藤さんが神原から上がってきた。早速皆さんから2000円の徴収。夕食が終わる頃

になると知らないお隣さんと明日のコースの話などして輪が一つになった。

5/2 6時出発 早朝小雨が降り濃いガスで先が見えにくい。馬の背あたりに行くと少し晴れてくる。この馬の背から双耳峰に見える山頂の景色がアケボノツツジとマッチしていいのだが遠くはガスで見えない。宮原着6時45分。これから障子岩に向かう。池の原、八丁越のアケボノ、シャクナゲのピンク、シロモジの黄色、そしてブナの新緑等どこにも負けられない最高の景色を満喫しました。目前には古祖母、本谷山、傾山、大崩山など景色を楽しみながらいつの間にか大障子岩、前障子に着く。数年前のササコギはどこ？ 今は全くなくなりいい縦走路になっていた。前障子からブレーキをかけながら一気に下ると健男社に14時着く。満足した8時間の山行でした。やっぱり春は新緑が美しい九州の山が最高！

(参加者 原広美、森本信子ほか、計5名)

6月支部山行 那岐山(岡山) 道後山(広島)

中国山地でテント合宿

No.13523 浜松 礼子



岡山県的那岐山(1255m)山頂

6月10日(土) 晴れ

新下関駅7:05原さんの出迎えを受け内藤さん宅へ。内藤さんの車で他メンバーが待つ中国自動車道鹿野SAで合流。庄原ICを下り道後山の登山口、月見が丘駐車場へ11:30着。正面に岩樋山を眺め登山道に入るとすぐに樹林帯となり展望の良い東屋へ。眼下に道後山高原スキー場が見える。シーズンには賑わうのだろう。やがて視界が広がりヤマツツジ、タニウツギ、足元のアカモノ、イワカガミを楽しみながら岩樋山へ。パラポラアンテナが設置されており360度の展望。大勢の登山ツアーのランチ中を横目に道後山を目指す。40年前まで牧場があった県境界の石塁を右手に山頂へ到着。こども360度のパノラマ。伯耆大山が雲間に霞んで見える。昼食後ひたすら下山。クロカンパークの施設



広島県の道後山(1269m)山頂

「すずらんの湯」で疲れを取り東城ICから入り津山ICで下り「ジャスコ」で食材を調達。今夜のテント泊の菩提寺へ。18:30着。テント3張り、タープ1張り。皆の手際の良さに感心しつつ女性軍は夕食の準備に取り掛かる。焼肉、ミンチのスープ、サラダ2種。アツと言う間に整いビールで乾杯!

矢野さんの車にはタープを始め全ての装備が積まれておりとても助かりました。タープの中での焼肉パーティーは天井が高く周囲にネットも張り虫害もなく食べて飲んでおしゃべりして、と時間の経つのが早かったこと。

反省・・・早目にテント場へ到着すべし。原さんを見習い温泉では「カラスの行水」にするべきでした(笑) 木々の合間に月を眺め、明日の晴天を確信して就寝。

6月11日(日) 晴れ
5時起床。朝食は内藤さんのベーコンエッグ。手つきの良いのに驚く。テント撤収、後片付けを済ま

せ7時にキャンプ場を後にする。車1台は下山口に回す為林道で降り第2駐車場で内藤さん、矢野さんを待つ。「サラサドウダン鑑賞会」の甲板有り。二人も到着。

8時出発。大神岩コースをとり直ぐに倒木が伐採されており視界は良い。前方に駆け下りて来る人影発見。どうも上半身ヌードの様だ。そろそろすれ違っても良い頃だと思っていれば白いTシャツ姿に変身。これも山のマナーですね。

サラサドウダンに癒されながら三角点のあるピークへ10:00到着。ここから北東へ400mで1255mの那岐山山頂だ。新しい石碑には「2001年、国土地理院の測量結果をふまえ1240mから1255mへ改める」とある。途中にある避難小屋には鍵が掛かっており現在使われていないのだろう。ピークへ戻り滝山へと縦走を急ぐ。「サラサドウダン鑑賞登山」の一行とすれ違う。段々と縦走路から離れて行くのに気付く。こちらは智頭町へのルートだった。15分のロスタイム。再び縦走路に入るとまもなく硬い蕾をつけたササユリがあちこちに顔を出している。あと



新品初おろしのテントで



滝山(1197m)山頂

1週間で可憐な花が見られるでしょう。

12:20、一等三角点の滝山登頂。立派な展望台の上で昼食。やはり今日も伯耆大山は遠く霞んで見えた。下山は滝コース。運転される二人は足早に下山し私達はのんびりと滝神社でしぶきにうたれ雌神社の滝まで足を延ばす。

14:30、みそぎ橋駐車場着。まもなく車二台が到着し15:00発それぞれ岐路に着きました。

リーダーの内藤さん、原さん、そして長距離の運転でお疲れだったでしょう。内藤さん、矢野さん、そして参加の皆様、充実した二日間でした。本当にお世話になりました。有難うございました。

参加者

- CL 内藤 SL 原 池田
- 塩屋 八木 森本 浜松
- 会友 矢野 安富

◇◇◇ 報告・お知らせなど ◇◇◇

山岳会員の
使命の重さを痛感

初心者登山教室に30人

すでにご案内しましたが、本年5月27日から10月28日までの間、計6回の計画で、門司区大里南市民センターで「初心者登山教室」を開催しています。

5月27日(土)が第1回目で、7月22日(土)で第3回目を迎えます。定員20人のところ、参加希望が多く30人となり、後は教室の収容能力がなくお断りするほどでした。

登山歴は、全くの初めてから1年以内の受講者が多く、登山熱の強さに改めて感じ入りました。山岳遭難件数は昨年1,382件、遭難者は1,684人と過去最悪の記録となっており、われわれ日本山岳会メンバーの果たすべき使命の重さを痛感している次第です。(大楠)

日本山岳会第22回全国支部懇談会のご案内

日程：平成18年10月7日(土)～9日(月・祭日)
場所：曹洞宗大本山 永平寺

行程と参加費用

Aコース(10月7日~8日、永平寺宿泊~記念山行)
12,000円

Bコース(10月7日~9日、永平寺宿泊~記念山行~
懇親会(あわら温泉「美松」泊)28,000円

Cコース(10月8日~9日、記念山行~懇親会「美松」
泊)18,000円

交通費概算

約30,000円(小倉~京都~福井~永平寺、往復
新幹線&北陸線利用)

記念山行(10月8日)

道元禪師ゆかりの地「祖跡コース」を歩く。大仏
寺山(807m)を経て吉峰寺

詳細は参加確定者に後日連絡(福井支部より)

主催

福井支部

申し込み先

事務局(関口)までFAXをお願いします。
093-382-6436

申し込み期限

平成18年7月30日

自然保護委員会全国集会のご案内

日程:平成18年10月21日(土)~22日(日)

宿泊:ホテル大山別館しろがね荘(貸切り)

参加費:20日、21日2泊・・・26,000円、
21日、1泊・・・17,000円

交通費:現地までの交通費は別途、要計上。

行事内容

10月21日 支部報告・事例報告・グループ討議
(登山者自身に起因する環境問題)。本問題を掘り
下げるためのグループ別討議テーマ

(1)高山植物(2)山のトイレ(3)登山道

(4)商業登山(5)適正利用

10月22日 大山登山・自然観察散策(3コースを用意)

主催:自然保護委員会、協力:山陰支部

仮申し込み受付中

申し込み先、事務局(関口)まで。

TEL/FAX 093-382-6436

申し込み期限:平成18年8月31日

会員異動**新会員**

北九399 平井喜久枝(本部会員11884) 千葉県野田市

北九400 倉本とき子 下関市

退会

12369 居吹 涼子 2005年3月 北九州市

北九248 角 勇賢 2006年6月 福岡市

北九337 中村 芳信 2006年6月 北九州市

北九338 中村スミ子 2006年6月 北九州市

新役員の役割・分担

新役員の役割と分担がきまりましたのでお知らせい
たします。(敬称略)

統括

○大庭支部長

総務委員会(支部の運営、組織の維持・拡大、名簿の管理)

○大楠副支部長、西村

財務委員会(支部会計の管理・運営)

○馬場

山行委員会(山行計画の立案、実施)

○原、細川、西村、山田

自然保護委員会(本部委員会及び支部活動の窓口)

○日向

遭難対策委員会(遭難防止対策の推進)

○江頭

広報委員会(支部報発行を核とした広報活動の推進)

○伊藤副支部長

会計監事(会計及び業務監査)

○大城戸、高島

事務局長(委員長・チーフ)

○関口

新テント購入

今回、支部備品とし
て6人用テントを購入
しました。

山行委員会が管理し
ますので、ご利用希望
の方は山行委員会のメ
ンバーと打ち合わせの
上、ご利用ください。

**チャチャタウンに「好日山荘」開業**

山の専門店「好日山荘」が小倉砂津のチャチャタウン
2F(キャンプ2の出店跡)に7月1日オープンしま
したのでお知らせまで。

山行計画のご案内**8月の山行**

真夏の滝と溪谷を散策

たつきりけいこく にししいや

岳切溪谷・西椎屋の滝(8/6)

(大分県宇佐院内町)



1. 期日 8月6日(日)
2. 集合 6日午前8時 小倉駅北口KMMビル前
3. 行程 北九州都市高速~椎田道路~国道10号~
国道387~岳切溪谷駐車場10:00~11:30
西椎屋駐車場11:45、120階段往復
4. 携行品 雨具、水筒、弁当、着替え他。
5. 費用 2500円(20人参加の時)マイクロバス予定。
6. 締切 7月20日まで

7. 申込 大城戸昌敏 093-612-7476
 馬場 基介 093-371-8656
 なお、川の中を歩くので草鞋など持参すればなおよし。
 初心者でもOK

9月の山行

**夜空の星を眺めながら
 坊がツルでテント泊(9/23.24)**



1. 期日 9月23日(土)～24日(日)
2. 集合 門司港駅7:30
3. 交通 マイカー；国道10号線→道の駅おこしかけ→耶馬溪→吉部
4. 費用 5,000円位
(食費と交通費 人数により変動あり)
5. 日程
 23日(土) 吉部～坊がツル(1:30) テント設営後、
 立中山往復～法華院温泉入浴後夕食
 24日(日) 三俣山南峰直登～主峰～北峰～雨が池
 コース出合い～坊がツル テント撤収
 後下山
6. 締切 9月1日
7. 連絡先 fax tel 0832-45-5490 原 広美
 又はハガキ

背振山(1055m)のメタセコイヤ林(9/30)

期日 9月30日(土)
 集合場所 136号線椎原(しいば)バス停前 午前9時30分

サロンルーム

毎月第4水曜日
 7月のサロンは、26日(水)
 8月のサロンは、23日(水)
 時間 午後6時30分から
 場所 小倉北区魚町「コールド」
 (魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)
 費用 3,000円前後(ワリカン制です)



コース 車谷-矢筈峠-鬼の鼻岩-メタセコイヤ林
 交通手段 マイカー(小倉より高速にて約2時間)
 参加費 500円
 申込 山田武史(tel/fax 092-844-3563)
 締切 9月10日

10月の山行

**八ガ岳連峰主峰「赤岳」(2899m)
 ～縦走と紅葉を訪ねて～(10/12～15)**



期日 10月12日(木)～15日(日)の3泊4日
 行程 10/12(木) 新門司港(17:20発)→大阪南港(名門
 大洋フェリーの船中泊)
 10/13(金) 新大阪-名古屋-茅野駅-美濃戸口
 一行者小屋(泊)
 10/14(土) 赤岳-横岳-硫黄岳-赤岳鉱泉(泊)
 10/15(日) 美濃戸口-茅野駅-名古屋より新幹
 線(小倉着17:12)
 費用 ￥65,000.(概算です)
 申込 山田武史(tel/fax 092-844-3563)
 締切 8月15日

編集後記

○「北九だより」は、全国の支部にも配られています。もちろん本部の役員、会長も目を通されています。おかげさまで、関口事務局長の元に、熊本支部から「JAC北九だより29号」のお礼状に「小冊子ながらよくまとまった支部報だと思います。厚くても、あまり中味のない当支部の支部報より優れていると思います。」との、おほめのメッセージが添えられていました。この一言で私も、目が悪く片目丹下左前になろうとも、頑張ろうと思っていますので、皆様、原稿宜しく御願します。(原稿男Q)

○山の原稿は、事務局(関口事務局長)又は〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。
 TEL/Fax 0947-42-2772
 Eメール原稿は、nkchb785@ybb.ne.jp です。
 (Q)

好日山荘 チャチャタウン小倉店

「はじめまして！ 登山専門店「好日山荘」の吉田と申します。JAC北九州支部様のご好意で末筆ながらご挨拶させていただきます。7月1日にチャチャタウン小倉2Fにオープン致しました。ビギナーからベテランまで幅広い品揃えでみなさまの山行をお手伝いさせていただきます。山・商品の説明はもちろん、みなさまの山行のお話を拝聴する事をスタッフ一同楽しみにしております。一緒にもっともっと山を楽しみましょう！」

オープン特別ご優待券(JAC北九だより30号に添付)持参の方には、オープン記念・超特価品他 店内商品10%OFF!

期間 7月18日～8月13日

日本山岳会会員様 特別「好日山荘オリジナルてぬぐい」プレゼント!

営業時間 10:00～20:00 (P)有り



北九州市小倉北区砂津3-1-1
 チャチャタウン小倉2F
 TEL 093-512-3455

<http://www.kojitusanso.jp>
 株式会社コージツ